

偉い人はあちらこちらに

あまり広く知られていないものの、偉い人はあちらこちらにいます。そういう人に光が当たってほしいものです。香川県高松市の前田与三兵衛と愛媛県松山市の大川文蔵をご紹介します。

■奈良須池を築いた前田与三兵衛（香川県高松市）

奈良須池の辺りは干ばつに悩まされ、古くからたびたび大池の築造が計画されましたが、そのつど困難に遭って完成することができず、古地図には「ならず（不成）」と記されてきた土地柄でした。正保2年（1645）、承応3年（1654）に続いて、寛文8年（1668）の干ばつによる惨状を見て、山崎村の御蔵奉行前田与三兵衛は衝撃を受け、農民を守るために従来の4つの小池を統合して大池を築き、香東川から導水する計画を立てました。与三兵衛と農民の苦役と奉仕により奈良須池は寛文10年に完成し、小池に頼っていた岡本・川部・山崎・円座・中間・檀紙・飯田七か村の水量は倍加し、下流の中間・檀紙・飯田村では新田も開かれました。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年＞



■石手川を改修した大川文蔵（愛媛県松山市）

慶長年間（1596～1615）に足立重信により河道改修が行われた後、石手川ではたびたび洪水被害が繰り返されました。享保6年（1721）閏7月の洪水で堤防決壊により甚大な被害が出たのに続いて、翌享保7年6月の洪水でも田畑の被害3,263町、家屋の流失・倒潰1,478軒、死者88人等の被害が出ました。藩主松平定英は一時しのぎの川さらえや堤防修理では根本的な解決にならないと考え、大川文蔵を抜擢して改修工事を命じました。大川文蔵は、石手川の状態を観察し、流路を固定し堤防を守るために「曲出し」工法を考え出しました。改修工事は享保8年から享保14年にかけて行われ、その後約100年の間、石手川の洪水被害は記録されなくなりました。現在、石手川緑地に川にほぼ直角に突き出た高さ2mほどの丘がありますが、これが曲出しの跡です。＜松山市史編集委員会編「松山市史第2巻」1993年及び郷編集委員会編「たちばなの郷」2003年など＞

